

授業の視点

ユニバーサルデザイン製品を実際に使いながら鑑賞し、多くの人に使いやすくする工夫について話し合ったことは、ユニバーサルデザインのよさや美しさを感じ取り、デザインに対する見方や感じ方を深めることに有効であったか。

美術科学習指導案

令和4年12月7日(水) 第5校時 美術室

3学年〇組(男子〇〇名、女子〇〇名、計〇〇名) 指導者 〇〇〇〇

1. 題材名「みんなのためのデザイン」(光村図書 中学校美術 2・3)

2. 題材の目標

身の回りにあるユニバーサルデザイン(以下 UD)の製品を鑑賞する活動を通して、UDのよさや美しさを感じ取るとともに、多くの人に使いやすくする工夫について考えるなどして、美意識を高め、身の回りや社会のデザインに対する見方や感じ方を深める。

3. 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知形や色、材料などが使う人にもたらす効果や、造形的な特徴を基に、多くの人に使いやすいデザインを全体的なイメージで捉えることを理解している。	鑑UDに含まれるよさや美しさを感じ取り、造形的な特徴を基に多くの人に使いやすくする工夫について考えるなどして、美意識を高め、身の回りや社会の中でのデザインに対する見方や感じ方を深めている。	態鑑UDのよさや美しさを感じ取り、多くの人に使いやすくする工夫について考えるなどして、デザインに対する見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に主体的に取り組もうとしている。

4. 題材設定の理由

(1) 題材について

本題材は、学習指導要領第2学年及び3学年の内容項目B(1)ア(イ)「目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めること」に基づき、「UDの製品を鑑賞する活動を通して、多くの人に使いやすくする工夫について考えるなどして、デザインに対する見方や感じ方を深めること」をねらいとする。

UDとは、「誰もが使いやすいように考えられたデザイン」のことである。私たちの身の回りには、使いやすさや安全性に配慮してデザインされたUDの製品や建造物が多数あり、そこには、様々な目的や機能があり美しさがある。UD製品における造形的な特徴を、分析的に鑑賞することで、目的や機能、美しさを感じ取らせ、多くの人に使いやすくする工夫について考えるなどして、身の回りや社会のデザインに対する見方や感じ方を深めることができる。

「デザインする」という行為の対象には、常に使用者が存在し、他者を意識することが必要不可欠である。「人は多様である」という認識をもち、これはどういう立場の人にとって、どのように使いやすい道具なのかを考えることで、作り手の意図や思い、創造的な工夫などに気づかせることができる。また、UDの7原則の視点から鑑賞することを通して、UD製品的美と機能性が、社会を豊かで公平なものにしていることにも気づかせることができる。

(2) 生徒観について

(削除)

(3) 指導方針について

<全体を通して>

・机間指導等で困っている生徒に適切な声かけを行うとともに、生徒同士が互いに助け合える、教え合える雰囲気作りを大切に、すべての生徒が主体的に活動に取り組めるようにする。

<つかむ>

・鑑賞する UD 製品をグループで相談しながら、生徒自らで選ぶことで、主体的な鑑賞活動につなげるとともに、直感的な美意識と学習後の美意識を比べ、自らの見方や感じ方の深まりを実感できるようにする。
・めあてと学習活動については、黒板に掲示するとともに、生徒一人一人のICT端末に送り、学習活動の途中でも、自分が何を目的としてどのような学習に取り組むのかを確認できるように、見通しをもって学習に取り組めるようにする。

<鑑賞する>

・生徒にとって身近な日用品を実際に手に取って鑑賞する体験活動を通して、一人一人が実感をもって、機能と美の調和を感じ取らせるようにする。
・UD 製品の特徴や美しさを、造形的な視点で見つけられるように、視点別にカードを分けて書かせるようにする。

<広げる・深める>

・グループで UD 製品を分析する活動では、生徒一人一人が自分の考えを述べ、他の意見を聞き合う活動を取り入れることにより、一人では気付かなかった視点やよさに気付くようにし、見方や感じ方を広げ、深められるようにする。その際は、一台のICT端末を共有し、互いにコミュニケーションをとりながら、話し合いができるようにする。
・UD製品のアピールポイントを考える活動では、UDの7原則を紹介し鑑賞の視点を明確にすることで、UD製品のよさを生徒がたくさん見つけられるようにする。

UDの7原則

①誰にでも公平に利用できること。②使う上で自由度が高いこと。③使い方が簡単ですぐにわかること。 ④必要な情報がすぐに理解できること。⑤うっかりミスや危険につながらないデザインであること。⑥無理な姿勢をとることなく、少ない力でも楽に使用できること。⑦アクセスしやすいスペースと大きさを確保すること。

(文部科学省「学校施設のバリアフリー化等に関する調査研究報告書」による)

<振り返る>

・ロイロノートのアンケートを共有し、生徒同士が互いの意見を見合えるようにし、友達の意見を見ることを通して、自分の考えを広げ、深められるようにする。時間があれば、数人の生徒に発表させる。

5. 校内研修との関わり

本校の校内研修では、「『自己の考えを深め、表現できる生徒の育成』～学び合いの場を工夫した授業づくりを通して～」と設定し、授業構想シート(バスセッションを中心とした学び合い活動)を取り入れた授業づくりを行っている。

本時でも、授業構想シートを作成し、「①UD に含まれる造形的なよさや美しさを感じ取り、②多くの人に使いやすくする工夫について考え、③デザインに対する見方や感じ方を深める」ことに、目標を焦点化し、目標につながるめあてや発問、生徒の思考の流れを意識した学習活動を吟味した。また、ICT端末を使い、

生徒の主体的・対話的な活動を通して、身の回りや社会のデザインに対する見方や感じ方を深められるようにする。本学習は、鑑賞の題材になるが、シンキングツールを使い、分析的に製品を鑑賞することで、製品を使う目的や使用する者の立場や気持ちなどから主題を生み出し、機能と美しさを追求する発想や構想への学習へとつなげていけるようにする。

6. 人権教育との関わり

(1) 人権教育の視点

UDとは、誰もが使いやすいように考えられたデザインであり、差別のない公平な社会を築くためには、UDの視点が欠かせない。デザインの工夫で、より多くの人に使いやすい製品になり、そのことが、多様な人の人権を保障し、より便利で幸せな生活、公平な生活につながっている。

デザインが、私たちの社会や生活に大きく関わっていることを理解し、他者や相手の気持ちに共感できる人権感覚と、主体的に差別のない公平な社会を築いていこうとする実践的な態度を養うことが必要である。

そのために、UD製品を実際に手にとって鑑賞することを通して、UD製品の特徴や美しさから、多くの人に使いやすい工夫を実感し、身の回りや社会のデザインに対する見方や感じ方を深められるようにする。

【育てたい能力・態度】

- 感性:UD製品に見られる作り手の意図や工夫について考え、使用者の立場や気持ちに共感する。
- 知性:UDの使いやすさや美しさが、豊かで公平な社会の構築につながることを理解する。
- 実践力:デザインと社会との関わりを理解し、さまざまな人の立場を踏まえた造形活動に取り組み、主体的によりよい社会を築いていこうとする。

7. 指導と評価の計画(全1時間予定 本時は1時間目)(◎は指導に生かす評価●は評定に用いる評価)

過程	●ねらい ・学習活動	評価	評価方法・留意点等
つかむ／追究する／振り返る	<p>●UDのよさや美しさを感じ取るとともに、造形的な特徴を基に使いやすさについて考えるなどして、美意識を高め、身の回りや社会のデザインに対する見方や感じ方を深める。</p> <p>・様々なUDの製品を造形的な視点を基に鑑賞し、どのような工夫が使いやすさにつながっているか考える。</p> <p>・考えたことをグループで話し合い、クラス全体で発表する。</p> <p>・UDの特徴やよさについて考えたことをICT端末上で振り返る。</p>	<p>●</p> <p>●</p> <p>●</p>	<p>知 造形的な視点に着目してUDにおける特徴などについて理解しているかどうかを見取り、できていない生徒に対して形や材料などの効果を具体的に示しながら指導を行う。</p> <p>【活動の様子・ロイロノート】</p> <p>鑑 目的と創造的な工夫などについて考え、身の回りのデザインに対する見方や感じ方を深めていることを見取り、見方・感じ方が深まらない生徒に対し、造形的な視点を具体的に提示し、作品を鑑賞させるなどの指導を行う。</p> <p>【活動の様子・ロイロノート】</p> <p>態鑑 主体的にUD製品のよさや美しさを感じ取り、目的や創造的な工夫などについて考えようとしていることを見取り、できていない生徒に対して、使う人の視点に立たせるなどの指導を行う。</p> <p>【発言・活動の様子・ロイロノート】</p>

8. 本時の学習

(1) ねらい

UD のよさや美しさを感じ取るとともに、造形的な特徴を基に使いやすさについて考えるなどして、美意識を高め、身の回りや社会のデザインに対する見方や感じ方を深めることができるようにする。

(2) 準備 教師:ICT端末、UD製品(文房具)、黒板掲示用資料

生徒:教科書、ICT端末

(3) 人権教育の視点

○感性:UD 製品に見られる作り手の意図や工夫について考え、使用者の立場や気持ちに共感する。

○知性:UD の使いやすさや美しさが、豊かで公平な社会の構築につながることを理解する。

○実践力:デザインと社会との関わりを理解し、さまざまな人の立場を踏まえた造形活動に取り組み、主体的によりよい社会を築いていこうとする。

(4) 本時の展開

	学習活動	時間	指導上の留意点
つかむ	(1) 鑑賞する UD の製品(教科書・文房具)をグループで、相談しながら選ぶ。 (2) UD の定義を知る。 (3) 本日のめあてと学習の流れを知る。 めあて 「UD 製品の特徴や美しさに見られる使いやすさについて考え、UD 製品のプレゼンテーションをしよう。」	8	(1) ・直感的な印象(よさや美しさ)を伝え合いながら選ばせ、学習後の自らの見方や感じ方の深まりを実感できるようにする。 (2) 「UDとは、誰もが使いやすいように考えられたデザインのこと」 (3) めあてと本日の学習の流れを黒板に掲示すると共に、ロイロノートで各生徒に送り、いつでも確認できるようにする。
鑑賞する 広げる 深める	(4) それぞれの UD 製品の特徴や美しさを造形的な視点(①形・色、②材料・素材、③仕組み・構造)で見つける。 (5) それぞれの特徴や美しさがどのように使いやすさにつながっているか、考える。 (6) UD の 7 原則を視点に、UD 製品としてのアピールポイントを考える。	35 (7) (8) (2) (10)	(4) ・自分たちが選んだ UD 製品を実際に使いながら鑑賞させる。 ・UD製品のよさや美しさ、特徴を造形的な視点ごとにカードに色分けして書かせる。 (5) ・グループでICT端末を一台にして、コミュニケーションをとりながら話し合わせるようにする。 ・それぞれの特徴や美しさについて、シンキングツール(座標軸)にカードを張り付けながら、考えさせる。 (6) ・アピールポイントの視点を明確にするために、UD の 7 原則を紹介する。 ・シンキングツール(座標軸)をもとにアピールポイントを考えさせ、作り手が「誰(何)のために」「どのような工夫」をしているのかに気付かせるようにする。 ・話し合いがスムーズに進んでいる班には、改善点をあげさせることで、考えを深められるようにする。

	(7) UD 製品のアピールポイントをあげ、プレゼンテーションし合う。	(8)	(7) ・デザインの工夫で、使いやすい道具になっていることに気づけるようにする。
振り返る	(8) 振り返りのアンケートを行い、UD 製品を評価するとともに、UD の特徴や美しさ、よさについて、自分の考えを書く。	7	(8) ・作り手の思いを想像したり、身の回りにある多くのUDを想起したりしながら、デザインの大切さを確認できるようにする。 ・人権教育の視点を交えて、生活や社会の中のデザインの役割について、気づけるようにする。 ・各自の振り返りをロイロノートのアンケートで提出させる。その際、結果を共有し、生徒同士が互いに見合えるようにする。 ・時間があれば、数人の生徒に発表させる。

【評価項目】

○知識・技能(活動の様子・ロイロノート)

UD製品の色や形などの造形的な特徴が、使いやすさにつながっていることに気づき、デザインの工夫が豊かで公平な社会の構築につながることを理解している。

○思考・判断・表現(活動の様子・ロイロノート)

UDのよさや美しさを感じ取るとともに、UDの造形的な特徴から多くの人に使いやすくする工夫について考え、作り手の思いやデザインの役割について見方や感じ方を深めている。

○主体的に取り組む態度(活動の様子・ロイロノート)

鑑賞や話合いに積極的に取り組み、UDの造形的な特徴から多くの人に使いやすくする工夫について主体的に考えようとしている。

9. 板書計画

<p>めあて</p> <p>「UD 製品の特徴や美しさに見られる使いやすさについて考え、UD 製品のプレゼンテーションをしよう。」</p> <div style="display: flex; flex-wrap: wrap;"> <div style="border: 1px solid black; width: 50%; height: 40px; margin: 5px; text-align: center;">写真</div> <div style="border: 1px solid black; width: 50%; height: 40px; margin: 5px; text-align: center;">写真</div> <div style="border: 1px solid black; width: 50%; height: 40px; margin: 5px; text-align: center;">写真</div> <div style="border: 1px solid black; width: 50%; height: 40px; margin: 5px; text-align: center;">写真</div> <div style="border: 1px solid black; width: 50%; height: 40px; margin: 5px; text-align: center;">写真</div> <div style="border: 1px solid black; width: 50%; height: 40px; margin: 5px; text-align: center;">写真</div> </div> <p>UD…誰もが使いやすいように考えられたデザイン</p>	<p>学習の流れ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>課題1 「UD 製品にはどんな特徴や美しさがありますか。造形的な視点(①形・色、②材料・素材、③仕組み・構造)で見つけよう。」(7分)</p> <p>課題2 「UD 製品の特徴や美しさがどのような使いやすさにつながっているか、シンキングツールを使って考えよう。」(8分)</p> <p>課題3 「UD 製品のアピールポイントを上げよう」(12分)</p> <p>課題4 「UD 製品のよさを伝え合おう」(8分)</p> <p>課題5 本時の振り返り・「UD のよさや美しさについて、自分の考えを書こう。」(7分)</p> </div>	<p>UD の7原則</p> <p>①誰にでも公平に利用できること(公平性)②使う上で自由度が高いこと(柔軟性)③使い方が簡単ですぐにわかること(直感性)④必要な情報がすぐに理解できること(明確性)⑤うっかりミスや危険につながらないデザインであること(安全性)⑥無理な姿勢をとることなく、少ない力でも楽に使用できること(合理性)⑦アクセスしやすいスペースと大きさを確保すること(空間性)</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>デザインの工夫で、誰もが豊かで公平な社会になる。</p>
--	---	---